

地質標本を俳句に詠もう -小中学生の作品例-

玉生 志郎¹⁾・森尻 理恵²⁾・澤田 結基¹⁾・徳橋 秀一¹⁾・長森 英明¹⁾・青木 正博¹⁾

1. はじめに

地質標本館には、年間100校程の小中高校が校外学習で訪れる。地質標本館では、2009年度より一部の小中学校への課題として、館内に展示してある岩石・鉱物および化石標本(展示模型なども含む)を俳句に詠む取り組みを試みている(森尻ほか, 2009)。その狙いは、標本を自分の目でしっかりと観察してもらい、新しい発見や感動を自分の言葉で書き残してほしいからである。俳句は、このような目的に良く合致した手法であると思われる。俳句は小学6年生の国語の授業で行うので、小学6年生を中心に、年間10校程の小中学校に、地質標本館での俳句作りに挑戦してもらっている。多くの学校では、学校に戻ってから発表会などを試みているようである。それらの結果の一部を、ここに報告する。

地質標本館に展示されている内容は、産業技術総合研究所地質標本館編(2007)地球 図説アースサイエンス(誠文堂新光社出版)に詳しく紹介されている。また、地質標本館のホームページ上でも紹介されている(URL: <http://www.gsj.jp/Muse/mini-tour/minitour.html>)。なお、本文中に出てくる青柳鉱物標本については、青木(2009)を参照して頂きたい。

2. 俳句の具体例作り

まず、児童・生徒達に具体例を示す必要があるので、地質標本館のスタッフが、事前に地質標本を見て、小中学生の気持ちになっていくつか俳句を作ってみた。訪れる児童・生徒達に標本を良く観察してもらうことが俳句作りの目的なので、季語なしで作ることとした。季語なしでは俳句の本質に適わぬという意見もあり得るが、ここでは対象が地質の標本である

こと、および初心者には季語を取り込むことは大変難しいことを考慮して、季語なしの地質標本俳句として取り組むこととした。長年、俳句作りをしている地圏資源環境研究部門の田口雄作さんに、スタッフが作った俳句から良さそうな作品を選んでもらった。その作品を以下に示す。

- ・ただの石みがけばこれも宝石よ
- ・わらってる光る鉱物きらきらと
- ・珪化木抱えてみたら重かった
- ・黄鉄鉱金じゃないけど光ってる
- ・ミルフィーユみたいしましま象の歯に

地質標本館で標本を見た時の発見や驚きを素直に表現するという意味で、国語の教科書に出てくる俳句とは違うもので良いと判断した。児童・生徒達にはこれらの作品を参考にして、館内の標本を良く観察して、俳句を作るよう指示する。その時、コツと称して「きれい」と言いたい時に「きれい」という言葉はなるべく使わずに、もう一度標本を良く見て、何がきれいなのか、色や形などを自分の言葉で表現すること、および一つの俳句の中で言いたいことは一つに絞ること、この2点をアドバイスしている。

3. 小学生の作品例

校外学習に訪れた多くの小学校に俳句作りに取り組んでもらっているが、ここでは6年生全員が俳句を短冊に書いて、標本のスケッチと併せて地質標本館に送ってきてくれた、つくばみらい市三島小学校の作品を紹介する。この学校では、第4展示室と呼ばれる鉱物・岩石・化石標本が展示してある部屋(写真1)で、俳句作りに専念した。以下、その作品を紹介する。括弧内は著者の玉生が俳句の対象が何であるか

1) 産総研 地質標本館
2) 産総研 地質情報研究部門

キーワード: 俳句, 地質標本館, 校外学習, 地質標本, 作品例

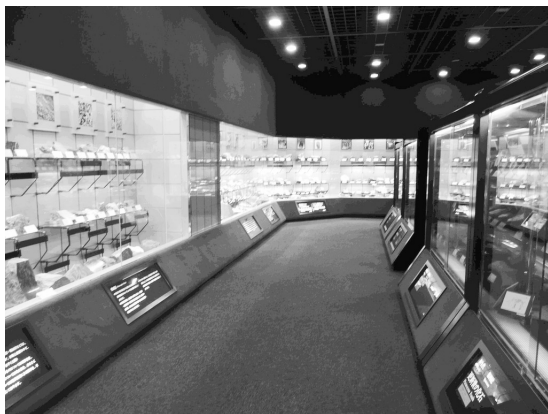


写真1 第4展示室.

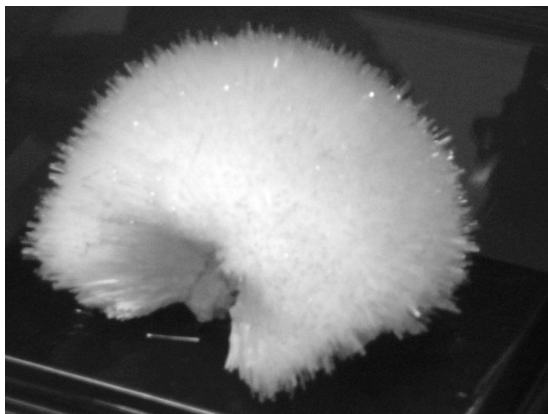


写真2 メソライト結晶(第4展示室).

を参考までに追記したものである。

- ・ サファイアよ青くかがやくまぶしいよ(サファイア)
- ・ 白い針いろんな方をみつめてる(メソライト)
- ・ とうめいなハートは恋のキューピット(水晶の日本式双晶)
- ・ キラキラとひかりかがやくダイヤモンド(ダイヤモンド)
- ・ 自然金たった一つの宝物(自然金)
- ・ メソライトさわってみたいなはりせんぼん(メソライト)
- ・ いじょうまきアンモナイトはかわいそう(異常巻きアンモナイト)
- ・ なんてだろう化石の中に顔一つ(シーラカンス化石?)
- ・ ツメタガイにじもつめたいなにするの(ツメタガイ)
- ・ メソライト純白ドレスのハリネズミ(メソライト)
- ・ ただの魚化石になったら有名人(シーラカンス化石)
- ・ なまでみたダイヤモンドはうつくしい(ダイヤモンド)
- ・ サファイアとダイヤモンドはたいけつだ(サファイアとダイヤモンド)
- ・ すいしょうなんでそんなにきれいな(水晶)
- ・ すい晶人どちがってはなれない(水晶の日本式双晶)
- ・ ほうせきだピカピカひかるダイヤモンド(ダイヤモンド)

以上の作品を見てみると、児童達がしっかり標本を観察して、俳句を詠んでいる様子が窺える。これら



写真3 異常巻きアンモナイト(第4展示室).

のうちから玉生が個人的に気に入った作品を取り上げ、感想を述べるとともに、その対象となった標本の写真を示す。

- ・ 白い針いろんな方をみつめてる

この作品はメソライトという沸石の鉱物を詠んだもので、たくさんの針状の白い結晶が印象的である(写真2)。メソライトの結晶になったつもりで、俳句を作ったところが素晴らしい。

- ・ いじょうまきアンモナイトはかわいそう

この作品は、異常巻きのアンモナイト(写真3)に深い同情を寄せた作品で、素直な良い作品である。

- ・ ただの魚化石になったら有名人

この作品は、生きている化石の一種、シーラカンス化石を詠ったものと思われる(写真4)。苦勞してやっと見つかる化石を、有名人のようだと捉えたところが



写真4 シーラカンス(第4展示室).

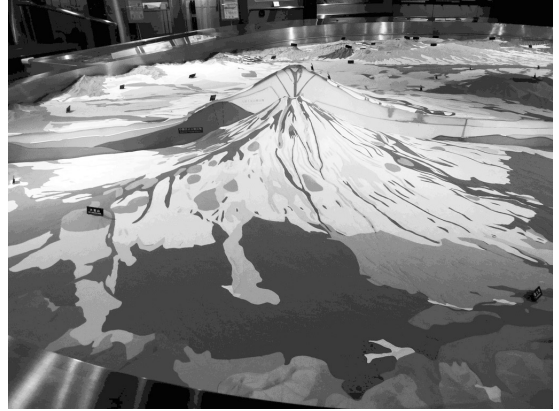


写真6 富士箱根火山の大型模型(第3展示室).

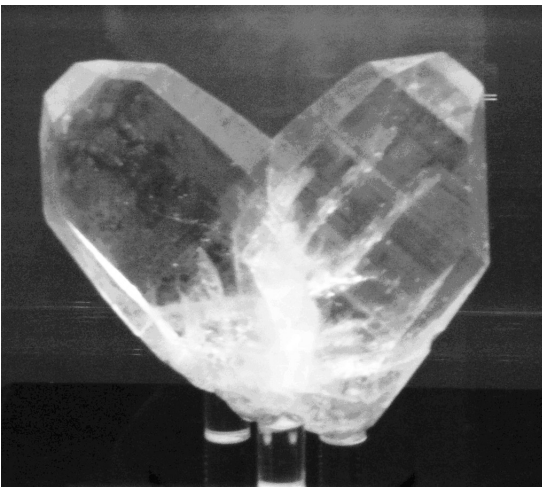


写真5 水晶の日本式双晶(第4展示室).

おもしろい。

- ・ すい晶人たちがってはなれない

この作品は、二つの水晶の結晶が双子のようについた日本式双晶を詠んだものである(写真5)。人間の互いに別れてしまいがちな悲哀さを指摘しているようで、心を打つ作品である。

4. 中学生の作品例

中学生の作品例として、2009年来館した茗溪学園中学校1年生の作品を取り上げる。この学校では毎年春に中学1年生全員が地質標本館を訪れて、全ての展示室を見学し、印象に残ったことを俳句に詠

んでいる。6クラス全員の作品は個々に掲載できないので、地質標本館スタッフが気に入った作品を選んで入選とし、最終的には青木正博 名誉地質標本館長が特選、佳作を選定した。これらの結果は、学校に報告するとともに、それぞれの入選作品には地質標本館のイベントで使用しているペーパークラフトなどの賞品を贈呈した。

特選

- ・ 富士山の中にまたまた富士山だ
- ・ 異常巻いているこっちが目を回す
- ・ ふん化石さわりたいけど少しいや
- ・ 緑鉛鉱えだ豆つぶつぶずんだもち
- ・ 方解石山に住んでるハリセンボン

佳作

- ・ カルデラ湖火山がふっとびできている
- ・ 骨の石固まっているのに動きそう

その他、印象に残った作品

- ・ 異常巻ひねくれてるなど思ったよ
- ・ 活断層なんとその色緑色
- ・ 大変だ押し合いへし合い地震だよ
- ・ 春雨を外にみつめる化石かな

以上の作品に対しても、玉生の個人的感想を以下に述べるとともに、対象となった標本の写真を示す。

- ・ 富士山の中にまたまた富士山だ

この作品は富士箱根火山の大型模型(写真6)を観察して、可動式の断面図に現れた、富士山の中の古



写真7 恐竜の糞の化石(第1展示室).



写真9 方解石(第4展示室).

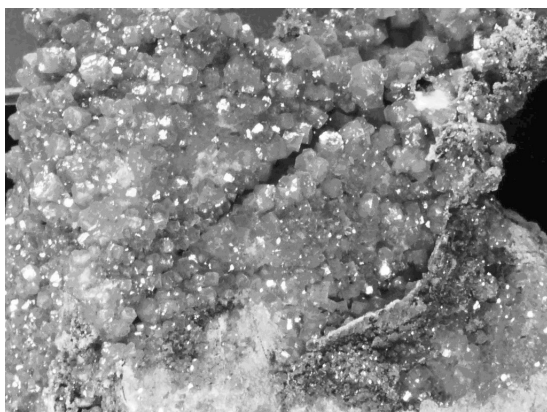


写真8 緑鉛鉱(青柳鉱物標本).

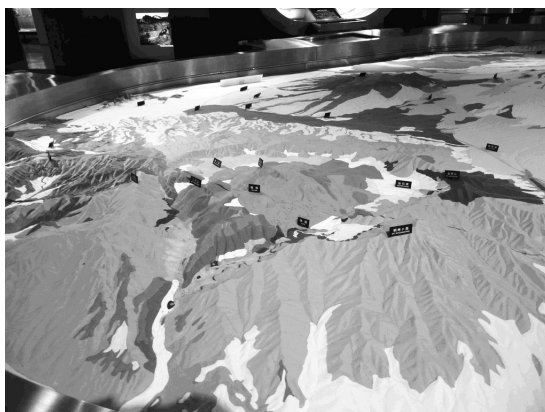


写真10 箱根火山のカルデラ湖(芦ノ湖)の模型(第3展示室).

い富士山を詠んだものである。富士山の形成過程の本質をしっかりと理解して、ずばりと詠み込んだ素晴らしい作品である。

・異常巻見ているこっちが目を回す

この作品は異常巻きアンモナイトをしっかりと観察して、自分の方が目を回してしまったという、主客逆転させたおもしろい作品である。

・ふん化石さわりたいけど少しいや

これは恐竜の糞の化石(写真7)を見た感想を、素直に詠んでいる。通常では糞は化石として残らないが、これは二酸化珪素に置換され化石として残ることができた。成分は完全に違ったものになってしまっているが、形態は元のまま残っている。

・緑鉛鉱えだ豆つぶつぶずんだもち

これは青柳標本の人気の鉱物の一つである。透明な黄緑色をしていて、本当にずんだもちのようなものである(写真8)。例えが妙を得ている。また、リズム感がとても良い。

・方解石山に住んでるハリセンボン

方解石の結晶は、真っ白で針のように尖っている(写真9)。それを、「山に住んでるハリセンボン」と例えたところがうまい。

・カルデラ湖火山がふっとびできている

これは箱根火山のカルデラ湖(芦ノ湖)の模型(写真10)を見ながら、火山の爆発的な噴火によって古い山体が吹き飛んでカルデラができた、と言う解説者からの説明を聞いて詠んだものと思われる。ただし、多くのカルデラ形成の主因は、山体崩壊よりも、地下



写真11 デスモスチルスの化石(第1展示室).

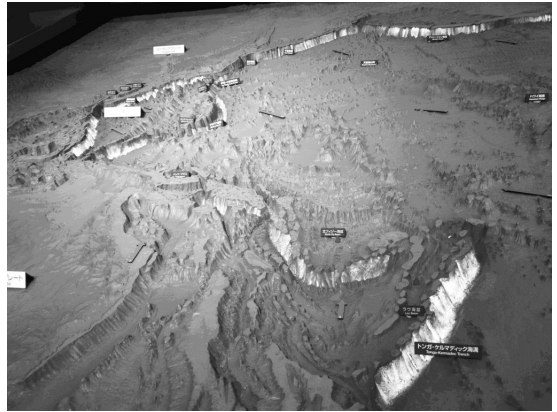


写真13 太平洋の海底地形模型(第2展示室).



写真12 野島断層の断層粘土(第3展示室).

浅いところにできたマグマ溜まりからの大量の火山噴出物の放出に伴う陥没であることが多いことを、参考までに付け加えておく。

- ・ 骨の石固まってるのに動きそう

この作品はデスモスチルスの化石の様子を詠んだものと思われる(写真11)。この骨は、(旧)地質調査所の山口昇一博士が北海道歌登で発見した完全固体化石である。確かにじっと見ていると、骨が動き出すように見えてくる。地層に残された骨の特徴を、良く捉えている。

- ・ 異常巻ひねくれていると思ったよ

この作品はアンモナイトの異常巻き(写真3)を詠んだもので、「ひねくれている」という見方が斬新でおもしろい。

- ・ 活断層なんとその色緑色

この作品は、阪神淡路大震災の時に動いた野島断層をボーリング調査して、深度620m前後から得られた断層粘土(写真12)を詠んだものである。母岩は花崗岩類であるが、野島断層の部分は粘土化して緑色を呈している。こんなところを、ずばりと俳句にしたところが素晴らしい。

- ・ 大変だ押し合いへし合い地震だよ

この作品は、太平洋の地形模型(写真13)を見て、太平洋プレートとユーラシア・プレートのぶつかり合いで地震が発生することを詠んでいる。自分の感覚で、地震の成因を大胆に詠ったところが良い。

- ・ 春雨を外にみつめる化石かな

この作品は、唯一、「春雨」という季語を取り入れた作品である。室内に納められている化石が、外の春雨をそっと見つめているという、情感たっぷりの作品である。大人の作品のように思われる。

5. 今後の課題

今回は、特定の学校での俳句作りの作品のみを紹介したが、次回は他の学校の作品についても紹介してみたい。作品に対する感想も、地質標本館の何人かのスタッフで、作品の持ついろいろな側面を解釈できたらおもしろいと思われる。また、地質標本の中には季語になるようなものが、いくつか見つけることができる。たとえば桜南小の6年生が作った「紫外線当てれば光る蛍石」(写真14)は、季語を「蛍」であると解釈して楽しむことも可能かもしれない。季語になりそうな地質標本を見つけて、俳句に詠むのもおもしろ

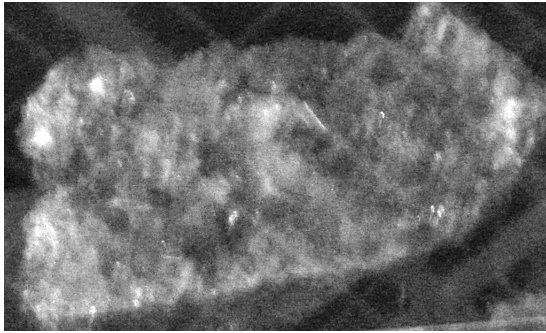


写真14 紫外線で蛍光を発する蛍石(第2展示室).

いと思われる.

謝辞：茗溪学園の^{あきもとたかみち}穂本貴通先生とつくばみらい市三島小学校の渡邊清美先生には、俳句の指導と取りまとめをして頂いた。また、それぞれの学校の生徒・児童のみなさんには、俳句作りに挑戦して頂いた。地質

標本館の酒井 彰さんと兼子紗知さんには例句を作るのに協力して頂いた。以上の方々に感謝申し上げます。なお、それぞれの俳句の作者名は、割愛させて頂いた。

文 献

- 青木正博 編(2009)：青柳鉱物標本。(独)産業技術総合研究所 地質標本館 発行, 149P.
 地質調査総合センター 地質標本館, 標本館ミニツアー, <http://www.gsj.jp/Muse/miniTour/miniTour.html>
 森尻理恵・澤田結基・玉生志郎(2009)：地質標本館の小学校校外学習プログラム：地層の学習(1)全体像とワークシート作成. 日本地球惑星科学連合2009年大会 予稿集.
 産業技術総合研究所地質標本館編(2007)：地球図説アースサイエンス, 誠文堂新光社, 175P.

TAMANYU Shiro, MORIJIRI Rie, SAWADA Yuuki, TOKUHASHI Shuichi, NAGAMORI Hideaki and AOKI Masahiro (2010) : Shall we compose haiku for geologic samples -Works by school children-.

<受付：2010年6月4日>